

2017年（平成29年） 4月28日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

4/13~4/19のNYMEX・WTIIは50.44~53.18ドルの範囲で、軟化気味に推移した。

4月20日は、19日の米国在庫週報のガソリン在庫増加等米国の供給過剰感と、サウジのファリハ・エネルギー相の減産延長観測発言やクウェートのマルズーキ石油相のロシアの減産延長前向き発言等OPEC・非OPECの協調減産延長への期待感とのみみ合いの中で、4営業日続落した。この日納会の5月限の終値は前日比0.17ドル安の50.27ドルだった。

週末21日は、ロイターによる米国産油量が2016年半ば以降10%増加しサウジ・ロシア両国に迫ったとの報道、ペーカークヒューズ社による米国内石油掘削リグ稼働数が688基(前週比5基増)と14週連続増加の発表、ロシアのノバク・エネルギー相の石油の余剰分は削減されたとの減産延長への不透明発言があり続落、3月29日以来3週間振りで50ドルを割った。この日から取引の中心となった6月限の終値は前日比1.09ドル安の49.62ドルだった。

週明け24日は、21日のOPEC・非OPEC主要国専門家会合における協調減産を6カ月延長するとの次回OPEC総会(5月25日)への提案の合意にも拘わらず、ロシア政府筋の減産延長への消極的発言、米国における増産傾向への警戒感から続落した。6月限の終値は前日比0.39ドル安の49.23ドルだった。

25日は、ロシアの慎重姿勢等協調減産延長への懐疑的見方もある中、米国官民の在庫週報発表を前に、原油・石油製品在庫の取り崩しが予想されることから、7営業日振りに反発した。6月限の終値は前日比0.33ドル高の49.56ドルとなった。

た。

26日は、米国エネルギー情報局(EIA)発表の原油在庫が予想(170万バレル増)を上回る取り崩しだったものの、ガソリン在庫が予想外に増加したことから、小幅続伸した。6月限の終値は0.06ドル高の49.62ドルだった。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(5月渡し)は、前週53.00~54.20ドルと、軟化しつつ推移した。4月20日は51.50ドル、21日は51.40ドル、24日は50.70ドル、25日は50.30ドル、26日は50.40ドルで推移した。

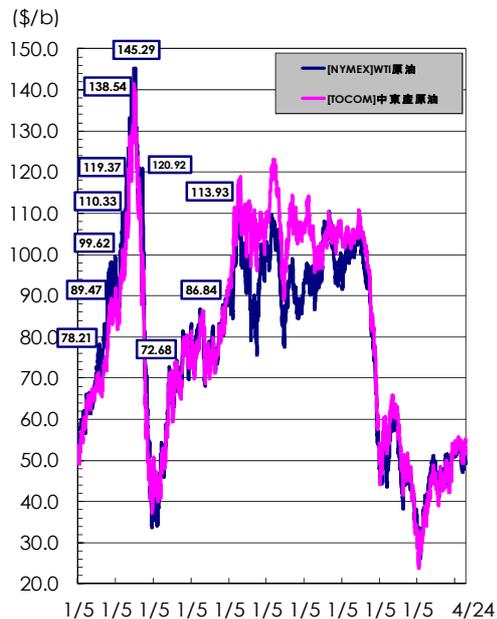
為替は、前週108.29~109.22円の範囲で円高に推移した。4月20日は109.05円、21日は109.31円、24日は109.96円、25日は109.93円、26日は111.33円で推移した。

財務省が27日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、4月上旬の原油輸入平均CIF価格は、37,864円/klとなり、前旬を2,396円下回った。ドル建てでは53.80ドルで前旬比2.22ドル安。為替レートは1ドル/111.88円。

主要元売会社の5月第1週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、0.5円から3.0円の値下げに分かれた。原油価格は値下がり、為替レートはほぼ横ばいで、原油調達コストは値下がりした。

そのような中で、4月24日時点の小売価格は、ガソリンが0.1円値下がりの133.9円、軽油は0.1円値下がりの112.2円、灯油は0.1円値下がりの77.6円だった。ガソリンは9週振りの値下がり、軽油も2週振りの値下がり、灯油は2週振りに値下がりだった。この週(4月第4週)の原油コストは値上がりしたが、元売の卸価格は全社据え置きだった。

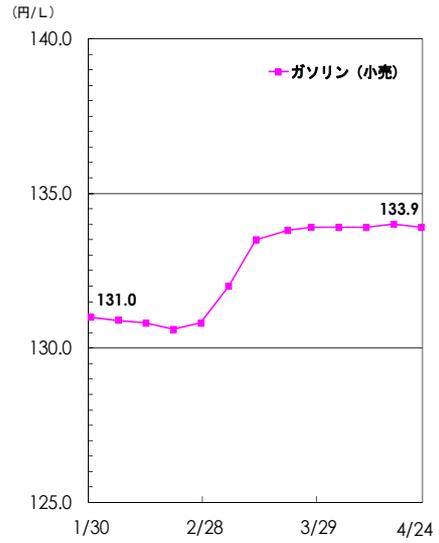
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	4/16 ~ 4/22	3,687 ▲159	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	94.1 ▲4.0	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	4/22	13,880 ▲1,053	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/ bbl)	4/24	51.68 ▼-2.55	▲10.6
	WTI原油(NYMEX) (\$/ bbl)	4/24	49.23 ▼-3.42	▲6.6
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	4月上旬	53.80 ▼-2.22	▲16.82
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	37,864 ▼-2,396	▲11,984
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	111.88 ▲2.37	▼-0.61
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/24	110.96 ▼-1.67	▲1.45



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/16 ~ 4/22	999 ▼ -13	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	924 ▼ -29	▼ -	
	輸出	"	3 ▼ -42	▼ -	
	在庫	4/22	1,848 ▲ 73	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/18 ~ 4/24	51.3 ▼ -1.4	▲ 11.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/18 ~ 4/24	49.9 ▼ -1.2	▲ 7.6
		(TOCOM/中部)	4/24	49.7 ▼ -1.2	▲ 8.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/24	133.9 ▼ -0.1	▲ 16.8	

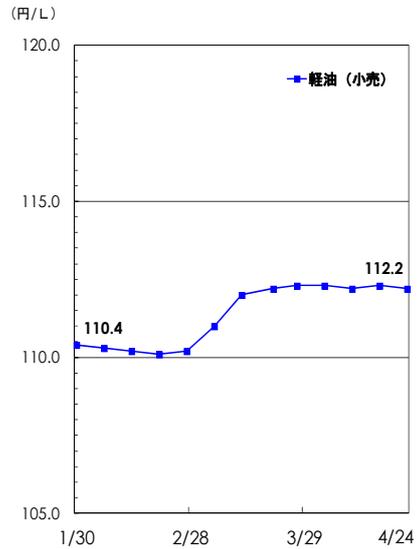
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

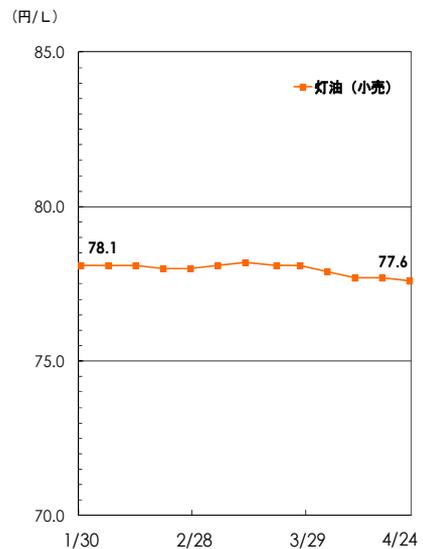
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/16 ~ 4/22	825 ▲ 87	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	654 ▲ 64	▲ -	
	輸出	"	56 ▼ -36	▼ -	
	在庫	4/22	1,616 ▲ 115	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/18 ~ 4/24	50.4 ▼ -0.4	▲ 13.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/18 ~ 4/24	48.0 → 0.0	▲ 11.6
		(TOCOM/中部)	4/24	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/24	112.2 ▼ -0.1	▲ 12.7	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/16 ~ 4/22	251 ▲ 3	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	242 ▼ -8	▲ -	
	輸出	"	0 → 0	→ -	
	在庫	4/22	981 ▲ 9	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/18 ~ 4/24	49.4 ▼ -0.1	▲ 14.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/18 ~ 4/24	45.8 ▼ -1.1	▲ 9.6
		(TOCOM/中部)	4/24	46.0 ▼ -1.2	▲ 10.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/24	77.6 ▼ -0.1	▲ 15.7	



■ 関連情報

1 海外/原油

4月26日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の週報で、米国内原油在庫が市場予想(170万バレル減)を大きく上回る360万バレルの取り崩しを示したが、ドライブシーズンを前にしたガソリン在庫が事前予想(100万バレル減)に反し340万バレル積み増しとなったこと、前日夕刻の米国石油協会(API)の米国原油在庫が予想外の増加となったこと、ドル高・ユーロ安の進行で原油先物に割高感が出たこと等から、売り買いが交錯し、小幅な続伸に止まった。6月限の終値は前日比0.06ドル高の49.62ドル、7月限の終値は前日比0.06ドル高の49.96ドルだった。

EIAによると、4月24日時点のガソリンの小売価格は前週比1.3セント値上がりの1ガロン2.449ドル(71.7円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.2セント値下がりの2.595ドル(76.0円/ℓ)。ガソリンは4週連続の値上がり、ディーゼルは4週振りの値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、4月16日～4月22日に休止したトッパー能力は9.0万バレル/日で、前週に対して17.8万バレル/日の減少(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は368.7万klと、前週に比べ15.9万kl増加。前年に対しては15.6万klの減少。トッパー稼働率は94.1%と前週に対して4.0ポイントの増加、前年に対しては3.6ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェットが減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/1.2%減、ジェット/8.0%減、灯油/1.0%増、軽油/11.8%増、A重油/5.2%増、C重油/19.4%増。今週のC重油の輸入は1.2万kl(前週比5.5万kl減)。軽油の輸出は5.6万kl(前週比3.6万kl減)。

出荷(販売量)は、前週比ではジェット、軽油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリン、A重油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は92.4万kl(対前週3.1%減)と2週振りに前週比で減少、3週振りに前年比で減少となり、12週連続で100万klを下回った。

ジェット11.3万kl(対前週24.4%増)、灯油24.2万kl(対前週3.4%減)、軽油65.4万kl(対前週11.0%増)、

A重油20.4万kl(対前週0.7%減)、C重油23.9万kl(対前週8.2%減)。

(単位:千KL)

	今週 (4/16 ~ 4/22)	前週 (4/9 ~ 4/15)	前週比
ガソリン	924	953	▼ -29 (-3%)
ジェット燃料	113	91	▲ 22 (24%)
灯油	242	250	▼ -8 (-3%)
軽油	654	590	▲ 64 (11%)
A重油	204	206	▼ -2 (-1%)
C重油	239	260	▼ -21 (-8%)
合計	2,376	2,350	▲ 26 (1%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

4月22日時点の在庫は、A重油のみが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、灯油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは184.8万kl、前週差7.3万kl増。前年に対しては0.2万kl多い。

灯油は98.1万kl、前週差0.9万kl増。前年に対しては22.3万kl少ない。

軽油は161.6万kl、前週差11.5万kl増。前年に対しては19.0万kl多い。

A重油は78.3万kl、前週差0.9万kl減。前年に対しては2.6万kl多い。

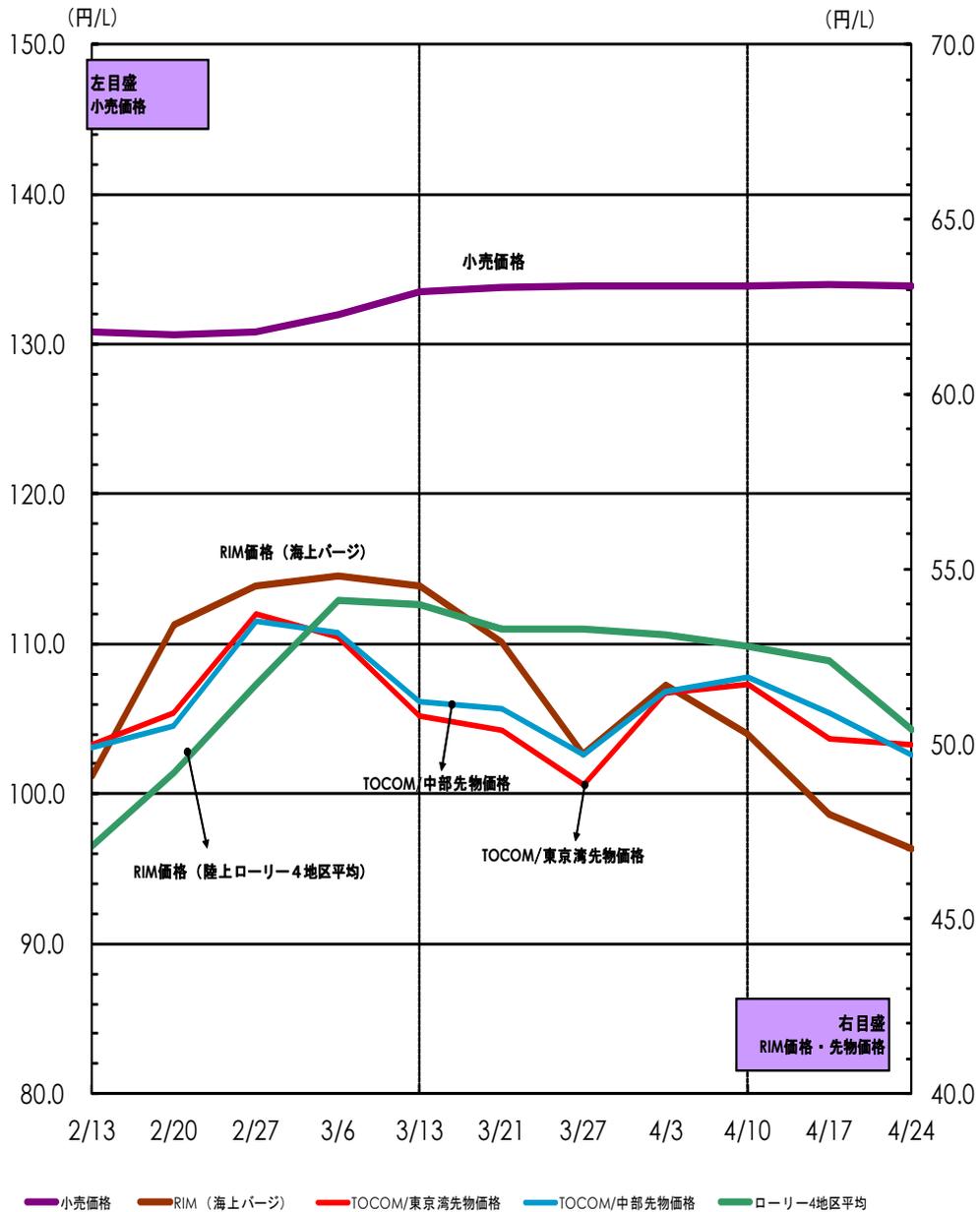
C重油は193.2万kl、前週差0.9万kl増。前年に対しては14.6万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (4/22)	前週 (4/15)	前週比
ガソリン	1,848	1,775	▲ 73 (4%)
ジェット燃料	1,033	986	▲ 47 (5%)
灯油	981	972	▲ 9 (1%)
軽油	1,616	1,501	▲ 115 (8%)
A重油	783	792	▼ -9 (-1%)
C重油	1,932	1,923	▲ 9 (0%)
合計	8,193	7,949	▲ 244 (3.1%)

ガソリン価格推移

(2017/2/13 ~ 2017/4/24)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2017第5号)の公表は、5/12(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年9月末現在)は、12月21日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。